

EMぼかし容器の使い方

1 EMぼかし（発酵資材）とはなんだろう

EMとは、英文字名の Effective Microorganisms（有用微生物群）の頭文字を取った略称です。EMぼかしは、米ぬか、もみ殻、糖蜜、EMなどを混ぜて発酵させたもので、生ごみに振りかけて発酵させることでたい肥を作ることができます。

※EMぼかし容器は、EMぼかしを使ったたい肥作りのための容器です。



2 EMぼかしによるEM生ごみたい肥の特徴

- (1) EMぼかしによるたい肥は、生ごみの形を残したまま水分がぬけたものになります。発酵したものであるため、漬物のような臭いがあります。
- (2) 容器が一杯になってから、夏場で1週間、冬場では2週間程度据え置けば、たい肥として使うことができます。（2ヶ月ほど据え置きさせると理想的）

※ 容器は完全密閉型なので、場所を取らず、臭いも漏れません。

3 容器の取り扱い上の注意

- 容器は直射日光が当たると劣化しやすくなるので、日陰で保管してください。
- 容器のコックは大変壊れやすいので、あまり強い力を加えないでください。
- 生ごみを入れ始める前に、中の栓がよく締まっていることを確認ください。栓が緩んだまま使うとコックが締まらない場合があります。
- 液肥抜きをしたあとは、コックをしっかり締めてください。



生ごみを入れ始める前に、中にあるこの栓をよく締める。

4 たい肥の作り方

<用意するもの>

・EMぼかし容器 ・EMぼかし ・生ごみ ・新聞紙

1

容器を開け、大きさを合わせて切った新聞紙（ティッシュペーパーでもよい）を中敷きの上に敷き、その上に軽くEMぼかしを振りまいて準備をします。



2

水分をよく切ってから、生ごみを容器に入れます。



★ポイント

生ごみは、その日のうちに処理してください。特に夏場は腐りやすいので、その都度処理することが大切です。

3

上からEMぼかしを振りかけ生ごみとよく混ぜ合わせます。



★ポイント

三角コーナー1杯分（約1kg）に対し、EMぼかしをひと握り程度（20～30g）の割合で使います。

4

容器に空気が入らないようにフタでしっかり密閉します。



★ポイント

空気が入ると発酵がうまく進まないので完全密閉の状態にすることが大切です。

5

中身が容器の8分目になるまで2～4を繰り返します。



★ポイント

2～4を繰り返している間は、こまめにコックから液肥を抜いてください。

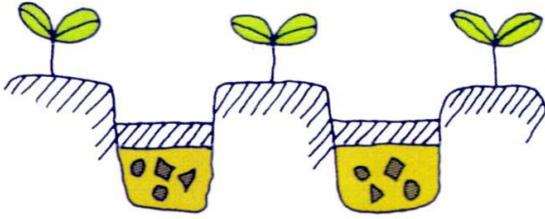
6

中身が8分目になったらフタをしたまま1～2週間ほど放置します。これでたい肥の完成です。

※4人家族の場合、1ヶ月から1ヶ月半ほどで容器は一杯になります。また、1ヶ月に必要なEMぼかしの目安は約2kgです。

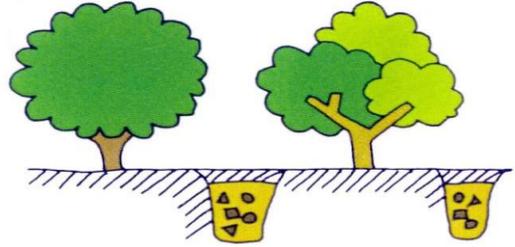
5 たい肥の使い方

【畑】



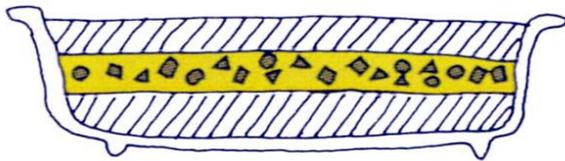
うねとうねの間に穴を掘り、EM生ごみたい肥と土をよく混ぜ合わせ、その上に土をかぶせます。

【庭】



所々に穴を掘り、土とよく混ぜて埋めます。その際、EM生ごみたい肥が作物の根に触れないようにします。

【プランター】



土を3分の1ほど入れ、その上にEM生ごみたい肥を入れたらよく混ぜ合わせて土を5～6cmかぶせます。最後にビニール袋で覆って、ひもで縛り、嫌気状態で1ヵ月ほど発酵させます。

たい肥を上手につくるためのコツ

・生ごみの水をよく切る。

・野菜などは細かくして入れる。

・EMぼかしは生ごみが新鮮なうちに入れる。

⇒腐敗した生ごみは、雑菌が繁殖したり、ショウジョウバエが産卵したりして、EMの活動を低下させます。

・人間が食べられないものは入れない。

⇒タバコ・ビニール・紙類・化学薬品・プラスチック・油、割りばしなど。

・十分な量のEMぼかしを入れる。

⇒EMぼかしの量が少なすぎると発酵が進みません。

⇒スイカなど水分の多いものには、EMぼかしを多めに振りかけてください。

・容器の底に溜まった液肥はこまめに抜く。

・落し蓋やビニール袋を使って中蓋をし、中身が空気に触れないようにする。

・直射日光が当たるところに容器を置かない。

Q&A

Q1 生ごみでたい肥をつくる際、腐敗させないコツは？

A 生ごみは嫌気発酵※しますので、完全密閉された状態を保ってください。生ごみの水分をよく切ることも重要です。また、三角コーナーなどに長時間生ごみを置いておくことは避けてください。

EMぼかしにより発酵した生ごみは、漬物の匂いがします。白いカビ状のものが発生することもあります。失敗ではありません。失敗した場合は、腐敗臭がしますので区別がつきます。

※嫌気発酵：酸素を必要としない発酵。

Q2 EMぼかしの保存期間と保存方法は？

A EMぼかしは、3ヶ月～6ヶ月まで保存できますが、メーカーによって異なります。購入するときは、必ず2ヶ月分位の必要最低限の量を購入してください。保管は風通しの良い暗いところでしてください。

Q3 EMぼかしによるたい肥化は、 コンポスト容器とどのように違うのですか？

A コンポスト容器によるたい肥化は、容器を屋外で使用することで、土壌中の微生物の働きにより生ごみの発酵・分解を進め、一杯になってから約6ヶ月でたい肥にさせるものになります。できるたい肥は、黒く、生ごみの元の形が分からなくなったものになります。なお、コンポスト容器を使用する際は、悪臭・害虫が発生しないような対策が必要です。

これに対し、EMぼかしによるたい肥化は、容器を屋内（日陰）で使用し、EMの働きにより生ごみの発酵・分解を進め、一杯になってから1～2週間程度でたい肥にさせるものです。できる堆肥は水分が抜けてしんなりとした、生ごみの形が残ったままのものになります。

Q4 液肥の抜き方はどうすれば良いのですか？

A 液肥は、コックを開けば抜くことができるので、受け皿（コップ）を置いて取り出します。この時、フタの中央部を上から軽く押すようにしていただくと、圧力で液肥が出てきやすくなります。



液肥の使い方

EM ぼかし容器の底に溜まった液体は、液肥として使うことができます。

液肥はこまめに抜き取り、水で500倍から1000倍に希釈したものを、畑や花壇、プランターなどに散布することで活用できます。ただし、液肥は短期間に変質するので毎日使いきるようにしてください。

TRY!

EMぼかしは、市販されていますが、ご自分で作ることもできます。

インターネットで、『EMぼかし』と検索すると、いろいろ載っていますので、興味のある方はアクセスしてみてください。

<材料>

米ぬか・・・・・・・・・・6 ㍓
もみがら・・・・・・・・・・2 ㍓
水（煮沸したもの）・・・・1 ㍓程度
ビニール袋（15 ㍓用）

EM原液・・・・・・・・・・4 ml
糖蜜（黒砂糖でも可）・・・・4 ml
シート

<作り方>

- ① 米ぬかと、もみ殻をよく混ぜる。
- ② 水500mlに糖蜜2mlをよく溶かして、次にEM原液2mlを入れて混ぜる。
- ③ ②を①に振りかけて、水分が均一になるようによく混ぜ合わせる。
※一握りにとって、緩い団子ができなかったら、もう1度②液を作って入れる。
- ④ ③をビニール袋に入れて、空気が入らないように口をしっかり止める。
- ⑤ 日陰で2～3週間寝かせ（発酵させ）、甘酸っぱい臭いがしたらできあがり。
- ⑥ シートに広げて、2日くらい乾燥させてから使う。